

地方道路交付金事業について

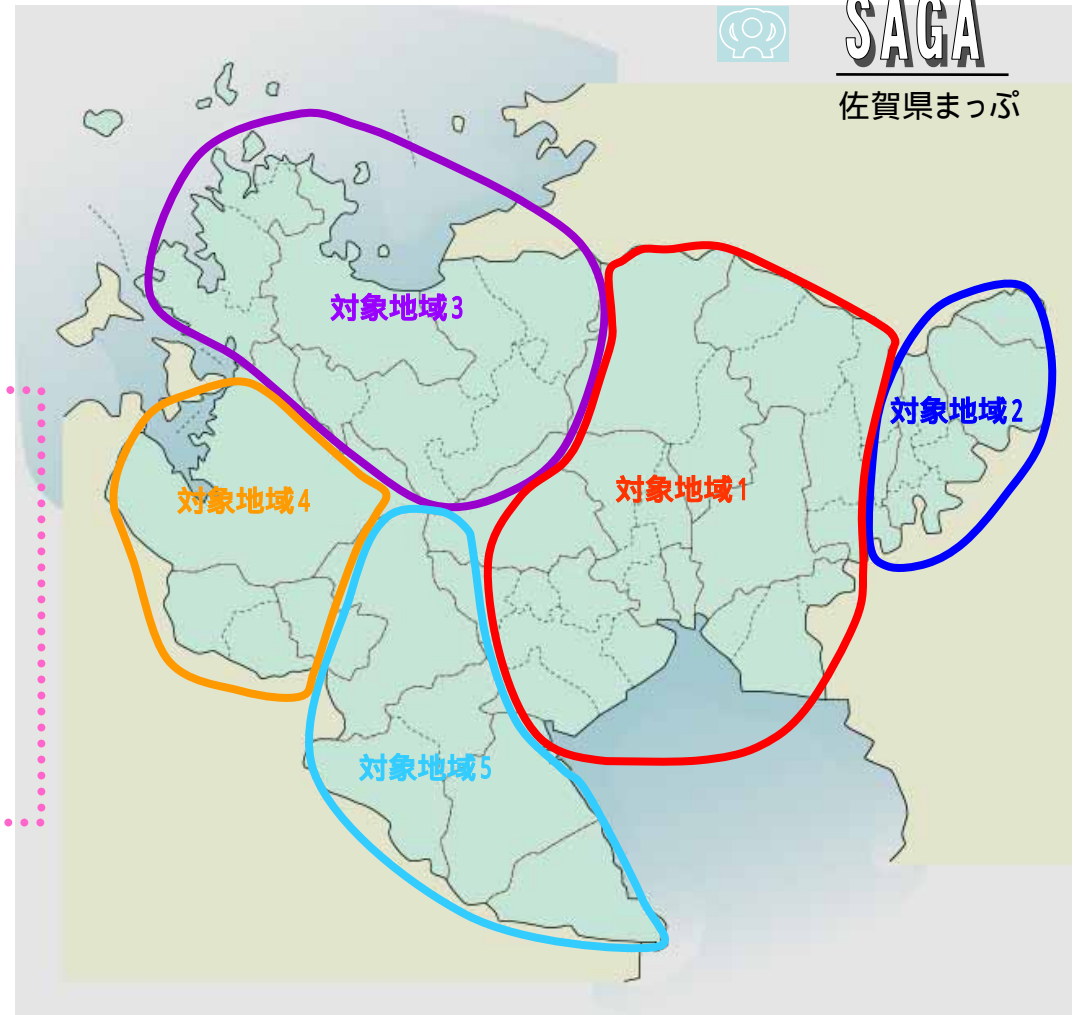
地方道路交付金事業は、地域の課題に対応する複数の事業に対して国が交付金を交付するものです。

佐賀県においては、県内を5つの地域に分け、それぞれの地域の特色をいかした道路整備を行うために、各地域にテーマを持たせ、成果目標（アウトカム指標）を設定し、道路の整備を進めています。

5つの地域テーマ

- ・対象地域1・・・県都佐賀市の都市機能強化を支援する道路整備
- ・対象地域2・・・九州の交流拠点形成を支援する道路整備
- ・対象地域3・・・西九州自動車道と玄海国立公園をはじめとする観光地を連絡する道路整備
- ・対象地域4・・・やきものの里の産業振興を支援する道路整備
- ・対象地域5・・・温泉地を核とした観光ネットワークの形成を支援する道路整備

注) 対象地域について正式にはパッケージと言いますが、説明をし易くするためここでは、対象地域と呼びます





成果目標と費用便益について

成果目標とは、

道路事業は様々な目的のために行っていますが、整備後の効果を判定する1つの指標（ものさし）として各地域の特徴に着目した成果目標（アウトカム指標）を設定しました。

成果目標とは、地方道路交付金事業において実施される道路の整備により、期待される効果を数値で表したものです。

成果目標は対象地域毎に設定しており、それぞれ中間目標（平成24年度末）及び最終目標（平成29年度末）と達成値との比較検証をおこないます。

費用便益比とは、

地方道路交付金事業により期待される効果（走行時間短縮便益・走行経費減少便益・交通事故減少便益）[B : 便益] を投資する総費用 [C : コスト] で除して [B / C] を算出しています。

各地域の成果目標一覧表

| 対象地域 | 対象事業名 | 成果目標 (アウトカム指標) | 成果目標 (アウトカム目標) の示す内容 | 成果目標(アウトカム指標)値 | | | 費用 便益 |
|------|-----------------------------------|--|------------------------------|--------------------|---------------|---------------|----------|
| | | | | 現況値 H20年度 当初 | 中間目標 H24年度 | 最終目標 H29年度 | |
| NO.1 | 県都佐賀市の都市機能強化を支援する道路整備 | 県都佐賀市の渋滞緩和と周辺地域の連携強化を図るため、交通拠点への短時間アクセス可能人口の増加を図ります。 | 交通拠点へ15分間でアクセスできる人口の増加率 | — | 9.4% | 13.5% | 2.2 |
| NO.2 | 九州の交流拠点形成を支援する道路整備 | 産業の振興を支援するため、工業団地の利便性の向上を図ります。 | 工業団地や流通団地等から鳥栖ICへの時間の短縮率 | — | 0.4% | 2.0% | 5.5 |
| NO.3 | 西九州自動車道と玄海国定公園をはじめとする観光地を連絡する道路整備 | 主要交通拠点からの短時間アクセス可能観光施設の増加による観光地間連携強化を図ります。 | 主要交通拠点から15分間でアクセスできる観光施設の増加率 | — | 2.3% | 3.9% | 2.0 |
| NO.4 | やきものの里の産業振興を支援する道路整備 | 主要交通拠点からの短時間アクセス可能圏域の増加による産業復興を図ります。 | 主要交通拠点から15分間でアクセスできる圏域の増加率 | — | 2.9% | 3.5% | 3.2 |
| NO.5 | 温泉地を核とした観光ネットワークの形成を支援する道路整備 | 観光拠点からの短時間アクセス可能観光施設の増加による観光地間連携強化を図ります。 | 主要観光拠点からの15分間アクセス可能観光施設の増加率 | — | 5.3% | 7.5% | 1.7 |

対象地域1

県都佐賀市の都市機能強化を支援する道路整備

対象地域 [H 2 0 . 4 月現在]

佐賀市・多久市・神埼市・小城市・吉野ヶ里町・武雄市北方町・大町町・江北町

地域の現状・課題

県都佐賀市の中心部及び周辺部には、多くの交通拠点を構えており、県内はもとより県外都市圏との連携も可能である。

主要交通拠点へのアクセス道路には、未整備の箇所もあるため、周辺地域との連携強化の障害となっている。

事業の目的

県都佐賀市と周辺地域とを連絡する道路及び市街地部での交通渋滞を解消することにより県都佐賀市の都市機能の強化を図ります。

成果目標 [交通拠点への短時間アクセス可能人口の増加]

県都佐賀市の渋滞緩和と周辺地域の連携強化を図るため、交通拠点へ15分間でアクセスできる人口を増加させます。

$15分到達圏人口増加率 = (H24・29年度15分到達圏人口 / H20年度現況15分到達圏人口 - 1) \times 100\%$

指標の現況及び目標値



費用便益比

B / C = 2 . 2

アウトカムイメージ図



成果指標の考え方

整備により交通拠点から車で15分間でアクセスできる範囲が拡大していき、より多くの人にとって便利な交通拠点となります。この範囲内の人口の増加率を成果指標として数値化しています。

対象地域2

九州の物流拠点形成を支援する道路整備

対象地域 [H 2 0 . 4 月現在]

鳥栖市・基山町・みやき町・上峰町

地域の現状・課題

県東部に位置する当地域は、高速幹線交通網のクロスポイントにあたり九州各地域との交流が盛んなため、工業団地・物流拠点の整備が進んでいる。

高速幹線交通網へのアクセス道路の整備が不十分のため、アクセス道路の整備及び工業団地・物流拠点整備を支援する道路整備を行う。

事業の目的

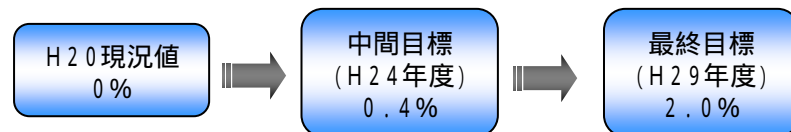
対象地域やその周辺にある工業団地及び物流拠点と高速幹線交通網の連携を強化し、利便性の高い交通拠点を形成します。

成果目標 [工業団地の利便性の向上]

産業の振興を支援するため、工業団地や流通団地等から交通拠点（鳥栖 I C）へのアクセスを改善します。

到達時間短縮率 = (1 - H 2 4 ・ 2 9 年度到達時間 / H 2 0 年度現況到達時間) × 1 0 0 %

指標の現況及び目標値



費用便益比

B / C = 5 . 5

アウトカムイメージ図



対象地域3

西九州自動車道と玄海国定公園をはじめとする観光地を連絡する道路整備

対象地域 [H 2 0 . 4 月現在]

唐津市・玄海町

地域の現状・課題

西九州自動車道の整備に伴い、玄海国定公園をはじめとする地域内の観光地を訪れる観光客の増加が見込まれる。

西九州自動車道と観光地、又は観光地間を連絡する道路には未整備箇所があり、高規格道路の機能が十分に生かされていないことが観光産業の振興の支障となっている。

事業の目的

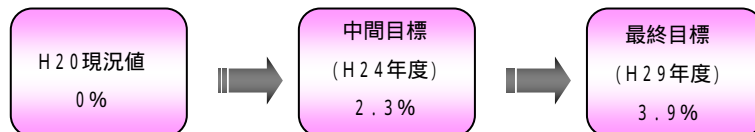
観光地間や観光地と幹線道路間の連携を強化することにより、当地域特有の観光資源を有効に活用し、事業地域内の一体となった振興を図ります。

成果目標 [交通拠点からの短時間アクセス可能観光施設の増加による観光地間連携強化]

交通拠点から 1 5 分間でアクセスできる観光施設を増加させます。

15 分到達圏観光施設増加率 = $(H24 \cdot 29$ 年度 15 分到達圏観光地数 / $H20$ 年度現況 15 分到達圏観光地数 - 1) $\times 100\%$

指標の現況及び目標値



費用便益比

B / C = 2 . 0

アウトカムイメージ図



整備により、唐津駅等の交通拠点から15分でアクセスできる範囲が拡大し、観光地へのアクセスが向上します。

対象地域4

やきものの里の産業振興を支援する道路整備

対象地域 [H 2 0 . 4 月現在]

伊万里市・武雄市山内町・有田町

地域の現状・課題

当地域は世界に誇る「伊万里・有田焼」を核とした広域的な窯業圏を形成している。また、国債コンテナターミナルを有する伊万里港の整備が進み、国際的な物流の拠点として重要な地域である。

しかし、交通拠点と各地域を連結する道路には未整備箇所があるため、当地域の産業振興の支障となっている。

事業の目的

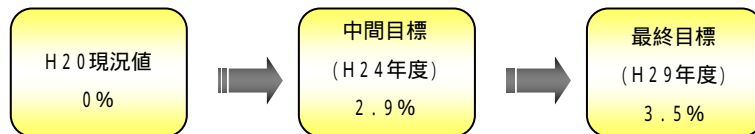
窯業を中心とした地域間の連携を強化し、当地域のもつ特色を活かした産業の振興を図ります。

成果目標 [交通拠点からの短時間アクセス可能圏域の増加による地域間連携強化]

交通拠点から15分間でアクセスできる圏域を増加させます。

15分到達圏増加率 = (H 2 4 ・ 2 9 年度 1 5 分到達面積 / H 2 0 年度現況 1 5 分到達面積 - 1) × 1 0 0 %

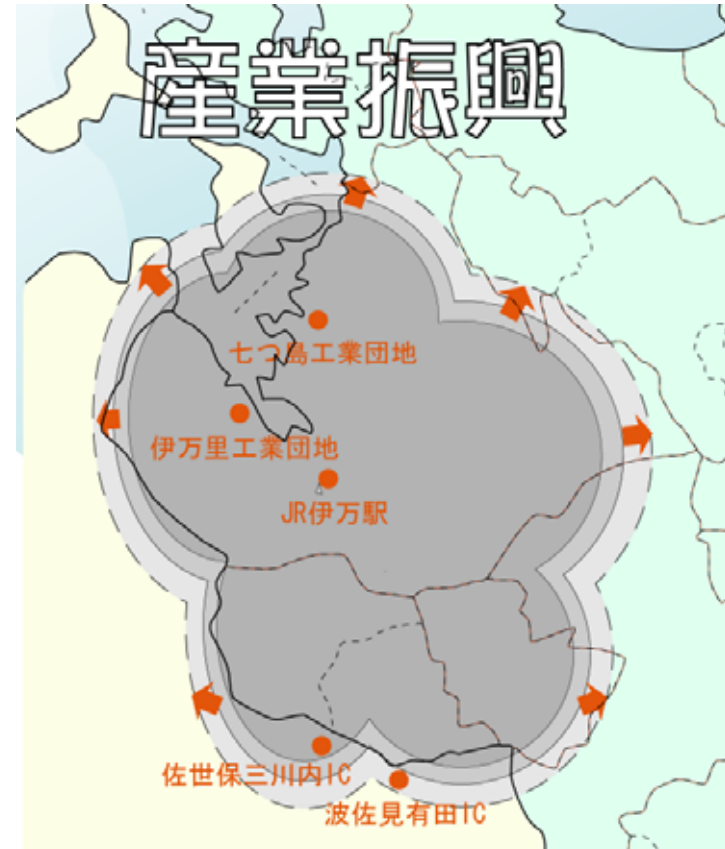
指標の現況及び目標値



費用便益比

B / C = 3 . 2

アウトカムイメージ図



整備により伊万里駅などの交通拠点から、車で15分以内に移動できる範囲が拡大します。

対象地域5

温泉地を核とした観光ネットワークの形成を支援する道路整備

対象地域 [H 2 0 . 4 月現在]

武雄市・鹿島市・嬉野市・太良町

地域の現状・課題

当地域は、嬉野温泉・武雄温泉といった全国的に知名度の高い保養地を有し、有明海・多良岳など豊かな自然とそこで育まれた農水産物に恵まれている。

しかし、観光地間を結ぶ道路は未整備箇所があり、長期滞在型の観光ネットワークの形成に支障となっている。

事業の目的

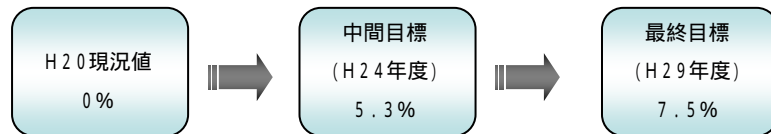
観光地間を結ぶ道路整備により、温泉地を核とした観光ネットワークを形成し、地域の活性化を図ります。

成果目標 [観光拠点からの短時間アクセス可能観光施設の増加による観光地間連携強化]

観光拠点からの15分間アクセス可能観光施設の増加による観光地間連携強化。

15分到達圏観光施設増加率 = (H 2 4 ・ 2 9 年度15分到達圏域観光地数 / H 2 0 年度現況15分到達圏域観光地数 - 1) × 1 0 0 %

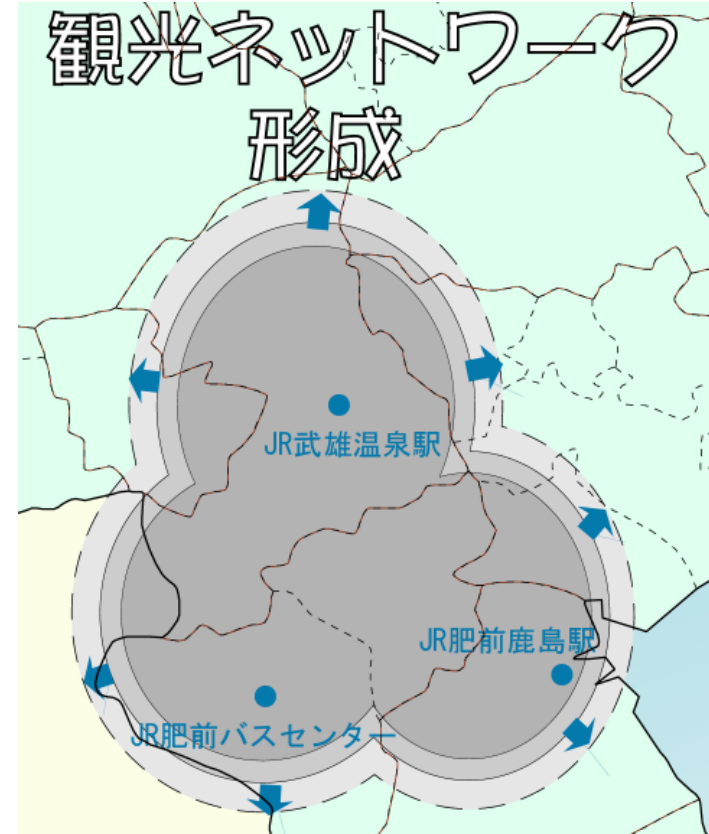
指標の現況及び目標値



費用便益比

B / C = 1 . 7

アウトカムイメージ図



整備により駅等から15分間で到達できる範囲の拡大し、観光施設へのアクセスが向上します。